

謹賀 年頭のご

美祢市長 村田 弘司



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素から、市政推進に対し多大なご理解とご支援を賜っておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、海外では、エボラ出血熱の世界的な感染拡大、イスラム過激派組織イスラム国の脅威、国内でも広島市北部で発生した豪雨による大規模な土砂災害、御嶽山の7年ぶりの噴火など、人々の安全安心を脅かす出来事が後を絶ちませんでした。

一方で日本の赤崎、天野、中村の3氏が青色LEDの開発によりノーベル物理学賞を受賞という、技術立国日本にとって、誇らしいニュースもありました。

政治経済情勢に目を向けますと、安倍政権の発足以来、長期に渡る経済停滞の打破を目指した経済政策であるアベノミクスが展開されてきましたが、景気の回復が遅れ、これが衆議院の解散及び消費税増税の引き金となりました。

このような社会情勢の下、本市におきましては、第1次美祢市総合計画の基本理念であります「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祢市」の実現に向けて、特に「国際交流の推進」「六次産業の創出」「ジオパーク活動の推進」をトリプルエンジンと位置付け、重点的に取り組んで参りました。

まず、「国際交流の推進」では、2月に本市から、私を団長とする16人の友好交流訪問団が台湾の南投県・水里郷を表敬訪問、台湾最大のイベントである台湾ランタンフェスティバルの点灯式にも出席し、同行した美祢市観光協会と台湾の野柳（やりゅう）地質公園の管理運営を行う新空間国際有限公司が「観光交流・学术交流促進に関する協定」を締結されました。

5月には、新空間国際有限公司一行14人が、今後の交流事業に向けた協議や秋吉台国定公園の視察を目的に本市を来訪されています。

8月には、於福中学校において、於福中学校と水里郷の水里国民中学が「姉妹校宣言」を締結し、水里国民中学の生徒22人は

於福中の生徒・卒業生宅にホームステイし、私の家にも2人の生徒がホームステイしております。

9月には、市内の団体や企業で構成する実行委員会が2014美祢ランタンナイトフェスティバルを開催され、大いに盛り上がりましたが、この点灯式には南投県政府代表と台北駐福岡経済文化弁事処総領事に来賓として参加していただいております。

この他、台北市議団の来訪、台北市で開催された「みね台湾経済貿易商談会」への本市商工業者の参加、台湾経済交流団体会長の本市農林作物や観光地の視察、台北駐福岡経済文化弁事処総領事ほか2人の副領事による於福中学校での講演など、また、台湾以外にもドイツスポーツユース（スポーツ少年団）と本市スポーツ少年団の交流、駐広島大韓民国総領事の表敬訪問など積極的に国際交流を推進して参りました。

「六次産業の創出」では、3月に本市の地域ブランドMineCollection（ミネコレクション）に20品目を認定し、市内はもちろん福岡や広島など県外のイベントでも積極的にPR活動を行って参りましたが、今後も広く国内外へのPR活動を行っていきたいと考えております。

11月には、昨年に引き続き美祢市六次産業化セミナーを開催いたしました。現在、六次産業化や特産品の開発に取り組まれる人の支援を積極的に進めており、本年1月に第2回のMineCollection（ミネコレクション）認定品目を募集することとしています。

市民の誇りとなりうる特産品、地域ブランドの価値を一層高め、農林業者・商工業者の所得の向上、担い手の育成、さらには雇用の拡大に繋げて参りたいと考えております。

「ジオパーク活動の推進」では、美祢市ジオパーク推進協議会で、名称を「*Mine*秋吉台ジオパーク構想」に、テーマを「カルスト台地に息づく地球と生命の歴史～自然と文化の調和を目指して～」に刷新し、平成27年度に日本ジオパーク認定を目指すことが確認されました。

これに伴い、出前講座などの普及活動、子供向け教育講座、山口大学など学術機関との連携、秋吉台科学博物館などの拠点施設の整備、道の駅・JR美祢駅などの情報発信拠点施設の整備、また、日本ジオパークネットワーク加盟地域との連携等、全力でジオパーク活動の推進に取り組んでまいりました。

ジオパークがめざす「持続可能な地域社会の実現」は、行政や大学などの学術機関だけではなく、市民の皆様や事業者、各団体の皆様のご理解や積極的なジオパーク活動への参画が必要不可欠と認識しておりますので、引き続き皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、昨年、有識者で構成される日本創成会議により、本市は2040年には若年女性が現在より50%以上減少し、消滅可能性都市（行政機能の維持が困難になるとみられる自治体）に該当することになるという衝撃的な将来推計が公表されました。

私は、本市の将来に一層強い危機感を抱くとともに、定住促進の重要性を痛感させられました。早速、分譲宅地の価格適正化や住宅取得に対して支援を行うMine（みね）ワクワク住（す）マイル事業を創設しましたが、定住促進には、住まいはもちろん、子育て、雇用の確保、その他定住に関わるあらゆる分野の環境整備を総合的に進める必要があります。

現在、平成27年4月から平成31年3月までを計画期間とする総合計画の後期基本計画の策定を進めておりますが、定住促進をトリプルエンジン同様、重点プロジェクトとして盛り込み、老若男女、健康者と障害者が互いに支えあい、共に生きる高福祉のまちづくりを進め、住みたいと思える・安全安心な活気あるまちの実現を目指して参ります。

本年も全力で市政運営に取り組んで参る所存でありますので、市民の皆様にご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

本年が、市民の皆様におかれまして、健康で喜びに満ちあふれた一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

新年

あいさつ

美祢市議会議長 秋山 哲朗



美祢市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成27年の年頭に当たり、美祢市議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春を、お健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、安倍内閣による経済・財政政策により、景気は上向いていると報道されているものの、これは都市部や一部企業に限定されたもので、地方にはその実感はありません。国はこれに鑑み、地方創生に取り組もうとしています。地方の元気なくして、国の発展はあり得ません。私たち地方はその権限を拡大し、地域の実情や特色を生かしたまちづくりを推進することが求められています。

また、広島市北部における豪雨災害や御嶽山の噴火により、尊い命が一瞬に奪われるなど、改めて自然の驚異にさらされた年でもありました。自然災害はいつどこで起こるか予想することは到底できません。私たちはこうした災害に強いまちづくりにも取り組む必要があることを、再認識させられたところでもあります。

美祢市におきましては、プラスチックリサイクル企業や自動車関連事業所が進出するなど、企業誘

致活動の成果は上がっており、今後の地域経済の活性化や雇用機会の向上につながるものと期待しています。

また、台湾台北市の「美祢市台北観光・交流事務所」が開所から3年を迎え、秋芳洞・秋吉台への海外からの観光客、とりわけ東アジアからの観光客は着実に増加しています。また、台湾南投県や水里郷との交流を契機として譲り受けたランタンにより、第一回目の「美祢ランタンナイトフェスティバル」が、昨年9月に実行委員会の皆様のご尽力により盛大に開催されました。これには市内外から多くの人々がお越しになり、台湾の食や文化に触れることができ、本市が「交流拠点都市～観光立市～」であることの情報が発信できたのではないのでしょうか。

さて、美祢市議会は昨年7月に「議会改革推進特別委員会」を設置し、「議員定数の適正化に関する事項」及び「議会改革の推進に関する事項」を協議しています。議員定数の適正化については、来年改選が行われることから、単に行政改革の視点だけでなく、市政の現状と課題、将来の予測と展望を十分に考慮しながら、市民の皆様に対し説明責任が果たせるような議員定数にいたします。

また、議会改革の推進については、これまででも議会基本条例に基

づき、議会報告会の開催や政策討論会などを通じて、市民に開かれ自由闊達な議論ができるようにしてきたところですが、さらなる活性化のための議論をしてまいります。

市議会は第一に、住民を代表する公選の議員をもって構成され、本市の具体的政策を最終的に決定し、また意見書及び要望決議や、並びに議員立法で条例を制定することで直接的に政策形成を行うことです。

第二として、議会の決定したことを執行部が執る行財政運営、事務処理や事業の実施が適法・適正に、しかも公平・公正、効率的になされているかどうかを住民の立場に立って監視することです。私たちは諸問題を、公平・公正かつ効率的・迅速に解決し、市民の皆様が安全・安心にお暮らしいただきながら、活力と潤いに満ちたまちづくりを推し進めるための議会となるべく、執行部との両輪で諸政策をスピード感をもって実行してまいりますので、議会活動に対しましてより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、新しい年を迎え、市民の皆様のご健勝とご多幸を、議員一同心よりご祈念申し上げます、年頭に当たってのごあいさついたします。